

## 【鶴見区】平成 31 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	平成 31 年 2 月 4 日（月）午後 2 時 45 分 ～ 午後 4 時 35 分
場 所	鶴見区役所 6 階 8 号会議室
出席者	<p>【座 長】古谷靖彦議員</p> <p>【議 員：5 名】山田一海議員、井上さくら議員、渡邊忠則議員、尾崎太議員、有村俊彦議員</p> <p>【鶴見区： 名】森健二区長、高家達朗副区長、花内洋福祉保健センター長、松本智福祉保健センター担当部長、山川博子福祉保健センター医務担当部長、山本尚樹鶴見土木事務所長、山田裕之鶴見消防署長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成 31 年度鶴見区個性ある区づくり推進費予算（案）について</li> <li>2 平成 31 年度個性ある区づくり推進費 自主企画事業費（案）について</li> <li>3 鶴見区の施策・事業の再編成について</li> </ol>
発言の 要 旨	<p>尾崎議員：小学校向けの市民防災センター見学会は、鶴見区内小学校のうちどのくらいの小学校数を予定しているのか。</p> <p>菊池総務課長：つるみっこ防災塾については区内小学校 22 校中 8 校で行っており、31 年度も同様の学校数を予定している。市民防災センターの見学会についてはこれから学校と調整するが、2 校から 3 校を予定している。</p> <p>尾崎議員：「まるごとまちごとハザードマップ」の更新と修繕の具体的な内容について伺いたい。</p> <p>菊池総務課長：「まるごとまちごとハザードマップ」は、鶴見川や多摩川が氾濫した際の浸水深など、洪水に関する情報を電柱などに表示しているもので、区内約 440 か所に設置し、5 年ごとに修繕等も含めて更新している。31 年度は、177 か所の更新と修繕を予定しているが、全体で約 440 か所あるので、毎年順次更新していく。</p>

尾崎議員：ハザードマップは地域の方が認識できることが大事なので、データ化して「ハザードマップの見える化」を進めていただきたい。

尾崎議員：鶴見駅西口の公衆トイレ前は、バス利用客や歩行者で混雑することが多い。花壇が大きすぎるなどの意見もあるが、トイレ改修に合わせて歩行者動線などの改善は可能か。

飯島区政推進課長：今回の西口周辺の環境改善事業では、トイレの改修に向けた設計費のみが予算計上されているが、設計を進めていく中で改修に合わせた周辺動線の改善についても必要が生じることもあるかもしれないので、物理的にできるかも含め、設計を進めていく中で考える。

尾崎議員：ガーデンネックレス事業は、市庁舎周辺は非常に整備されているので事業が実態として分かるが、区ではどのような展開を考えているのか。

飯島区政推進課長：ガーデンネックレス事業が始まった 29 年度は、鶴見駅東口から区役所へ向かう通りに花壇を設置し、近隣企業の協力を得て維持管理を行った。都市計画マスタープラン鶴見区プランを説明していく中で、都市環境における緑の創出について、質の維持や緑に親しめることを行ってほしいとの意見もいただいているので、緑の量を現状から更に増やすことはなかなか難しいかもしれないが、緑に親しめる環境は創っていきたい。

尾崎議員：鶴見区は障害者施策なども進んでいるので、障害者施設を活用するなど、花を増やすプロセスにおいても鶴見らしい方法を検討してほしい。

尾崎議員：昨年の区民まつりではフードドライブを実施していたが、今年の 3 大フェスティバルで食品ロスの取組みはあるか。

今井資源化推進担当課長：基本的に前回と同様に実施していく。また、今月下旬のあいねっと推進フォーラムでもフードドライブを実施し、区役所は食品を集める部分を支援し、区社会福祉協議会が必要な方へ提供する。区民まつりに限らず、引き続き区社会福祉協議会と連携しながら進める。

尾崎議員：是非継続的に実施するとともに、発信もしっかり行ってほしい。

また、音まつりなどのイベントで潮田中のマーチングバンドなど区民が活躍できる場を検討してほしい。

有村議員：29年度に90周年記念事業で増大した業務について、30年度は、業務のスリム化、軽減化に取り組んだと感じているが、31年度予算編成にあたり来年度の区長の区政運営に対する思いを聞かせてほしい。

森区長：区の機能強化が求められる中、鶴見区の特徴や将来発生するであろう課題をいち早く捉え、現在の事業をしなやかにシフトさせていきたい。課題の解決にあたっては、地域との共創という視点から、地域の担い手づくりを支援することなどにより、地域力を高めることが重要となる。一つの考え方として、区制100周年を見据えた施策と事業を進めていきたいと考えている。

有村議員：地域の課題は多くあるので、現状やニーズに合わせて修正していくことを期待している。

有村議員：鶴見駅西口喫煙所の移転候補地について、今の考えを伺いたい。  
今井資源化推進担当課長：西口公衆トイレの改修を検討する中で、喫煙所の候補地を確認したが適地が無く、大きな課題となっている。一方、健康増進法で国でも屋外の喫煙所の構造について専門部会で検討がなされているので、国からの支援があれば今の構造を変えることも可能である。現状では課題も多いので、こういった喫煙所が最適か引き続き検討していきたい。

有村議員：市場小学校けやき分校の新たな通学路の防犯カメラは、1台が認定されたと聞いているが地域が要望している防犯カメラは4台である。今後、どのようなスケジュールでどの程度整備するのか。

岩田地域振興課長：防犯カメラの設置事業は、町内会等からの申請を区役所で受け付け、市民局が全区の取りまとめ・調整を行い、神奈川県が審査を行ったうえで補助金が交付決定される。今回は4台申請して1台分が認定されたが、各区の状況をみても複数認定されている町内会はない。

有村議員：市場地区は、かなり特殊な状況にあるとも言えるため、通常とは別の手立ても必要ではないか。

岩田地域振興課長：優先順位について区役所から市民局へ申請する際に強く伝えていきたい。通学路の安全が確保できるように整備に向けて地元町内会、学校、教育委員会と連携して進めていく。

有村議員：末吉橋架替事業について、河川沿いの道は、市民の憩いの場として、散歩やランニングフェスタのコースとしても連続性をもたせた方が良いと言ってきているが、末吉橋の下を通れるように働きかけはしているのか、状況を聞きたい。

飯島区政推進課長：末吉橋の架替事業に関しては、設計が終了し、工事契約の決定がなされる段階のため、設計の変更は難しい状況にあると思われる。

有村議員：局では、イルミネーション事業をかなり行っていて、郊外においても展開していくという話もあるが、区として総持寺や横溝屋敷などの観光資源を活用した事業は考えていないのか。

飯島区政推進課長：総持寺や横溝屋敷などをイルミネーションという形で活用していくことは区役所としては考えていない。一方で、地域の方の相談を受けることはもちろん、内容によっては観光資源関係者と繋ぐことも考えていきたい。

有村議員：地域の方の観光資源活用の思いを拾い上げる仕組みを作ってほしい。

有村議員：鶴見区内の私立中学校や私立高校との連携は何かあるか。

菊池総務課長：防災関係では、帰宅困難者などが発生した時の受入れ施設として、協定を結んでいる。

有村議員：鶴見区内の私立学校では、地域貢献の思いはあるが鶴見区と接点がないと聞いている。多文化共生でも生徒たちが協力できることがあるのではないかと声を聞くので、公立小中学校や市立高校だけでなく、私立学校とも情報交換などができればいいと思う。区の窓口はどこなのか。

岩田学校連携担当課長：こども家庭支援課の学校連携・こども担当が窓口となる。

有村議員：区内私立4校で地域貢献について議論が進んでいるようなので

鶴見区との情報交換の場をつくってほしい。

渡邊議員：C I Qの設置に伴い、千客万来つるみプロモーション事業において、効果的な事業を実施してほしい。

渡邊議員：口腔ケア健康増進の関係では、区ではどのように関わるのか伺いたい。

花内福祉保健センター長：口腔ケアについては、口の健康が体全体の健康にかなり影響を与え、非常に重要だと認識している。区としてもわくわく歯っぴい講座や母親教室での歯周病予防啓発などの事業において、口腔ケアについて区民に広く知っていただくため、31年度は広報・啓発に力を入れていきたいと考えている。

渡邊議員：横浜市歯科口腔保健の推進に関する条例が施行されるが、それを踏まえて、今後の区としての考えを伺いたい。

花内福祉保健センター長：鶴見区には、鶴見大学が区内にあることから、歯科口腔保健分野の取り組みを進めるうえでは、地域一体となって取り組めるという強みがある。局や歯科医師会とも相談しながら事業を進めていきたい。

渡邊議員：鶴見区は、医師会、歯科医師会、薬剤師会の連携が取れており、鶴見大学もある。鶴見区として健康課題もあるので積極的に進めてほしい。

渡邊議員：鶴見区防災計画の見直しで、要援護者施設に対し避難計画と防災訓練が義務化することについて、市の危機管理室と連携はしているのか。

菊池総務課長：水防法が改正され、洪水又は土砂災害のリスクが高い区域の要援護者施設に対して避難確保計画の作成が義務化されたことに伴い、危機管理室では説明会を行っており、鶴見区としても各施設にお願いしている。実際に避難確保計画の提出があった施設は7割程度だが、今後も相談があった際には丁寧に説明して計画の作成をお願いしていきたい。また、避難確保計画では訓練の実施を規定することになっているので、災害時に福祉施設等が困らないように対応するため、危機管理室とも連携して100%の施設が計画をつくることのできるよう努力して

いきたい。

渡邊議員：是非 100%に向けて支援してほしい。震災では福祉施設が一時避難場所になることもあるので企業とは異なる対応を考えなければいけない。

渡邊議員：区提案反映制度の放課後児童クラブ施設の基準適合の推進に向けた支援について、現在区内で基準を満たしていない施設はあるか。

岩田学校連携・こども担当課長：放課後児童クラブ 21 施設のうち面積基準のみ不適合が 4 施設、耐震基準のみ不適合が 3 施設、面積・耐震基準の不適合は 3 施設。

渡邊議員：こども青少年局と連携して基準に適合できるように見守ってほしい。

渡邊議員：ランニングフェスタのコースは、河川敷ではなく町中を走っても面白いのではないか。

岩田地域振興課長：ランニングフェスタは、鶴見区体育協会が事務局となり、区が補助金を交付して、地域のスポーツ推進員や青少年指導員の協力で実施している。街中を走るとなると交通規制や警備員も必要となるので、警備を担当する地域の方の負担が少ない河川敷で行っている。

井上議員：統合事業費が新設され、各区共通した事業が外出しされたことは良いが、まだ他にも共通する事業があるのではないか。今後、共通する事業を更に統合事業費とすることはできるのか。また、それを区として局に対して求めていくのか区長の考えを伺いたい。

森区長：31 年度予算では、区の機能強化を図るためにかなり議論をしてこの 7 つの事業に決まったと聞いている。まずは、この 7 つの事業を来年度も継続していくことが大事。そのうえで、今回議論から漏れた事業があれば市民局へ要求していきたい。

井上議員：職員の人権啓発研修や区ホームページの管理など、市が当然やるべきものが自主企画事業に含まれているので、局へ要望してもらいたい。

井上議員：法改正で外国人労働者が来日しやすくなるが、多文化共生に関

わる部分は基本的に市全体で共通して行うべき。区役所窓口のタブレット端末による多言語対応は、鶴見区で先駆的に実施したが、標準化したことで区は更にきめ細かく多文化共生事業を行うことが必要。

森区長：鶴見区で実施している多文化共生事業や情報発信について、先駆的な事例を横展開し、他区でも同様のサービスを受けられるようにするとともに局事業に更に鶴見区独自の部分を上乘せしていくことが理想なので、目指していきたい。

井上議員：多言語化はいろいろな事業で必要であるが、子育て関係のパンフレットで多言語化対応ができていないものもあるので、できるだけ多言語化できるようにしていただきたい。

井上議員：鶴見駅西口の喫煙所は、適地の課題はあるが暫定的な移動は考えられないか。

森区長：喫煙所として適切な場所を探しており、現在の場所より良い場所があれば暫定も含めて検討していきたい。

井上議員：鶴見区高齢者はつつ生活応援事業に関連して、認知症普及啓発冊子の作成だけでなく、支援を必要としている方と支援ができる方のマッチングができる仕組みをつくっていただきたい。

坪山高齢・障害支援課長：認知症対策では、31年度は認知症普及啓発の媒体として冊子を作成し、認知症疾患の周知と認知症で困っている方を助ける方の紹介をすることにより、更に新しい人材の方に興味を持って活動していただくことを目標としている。また、3A認知症予防教室を実施できるような人材育成をすすめるとともに、既存の支援者にも認知症体験型講座等を行うことにより支援を行う。認知症予防には、認知症カフェと居場所づくりが大切であり、区内で認知症カフェが12か所、サロンが15か所あるので、このようところで活躍していただくためにも、まずは冊子を使って紹介していきたい。

井上議員：認知症予防について正しい理解が必要なので周知してほしい。

井上議員：国際交流ラウンジの強化について、学習支援教室は国際交流ラウンジのスペースが足りないと聞いているが、小学生と中学生の教室を分けることで改善するのか。

岩田地域振興課長：国際交流ラウンジは、2部屋あるので小学生と中学生を分け、また中学生は実施回数を月に2回から4回に増やすことで対応できる。

井上議員：今後も、支援を必要としている子どもたちを助けられるように考えてほしい。

井上議員：生見尾踏切は、対応に10年くらいかかると聞いているが説明してほしい。

山本土木事務所長：JRで検討する課題が出てきて、対応に時間がかかると聞いている。

井上議員：高齢者が渡りきれないことがあったので、抜本的対策として新しいエレベーターを設置することとしているが、事故から5年が経ち、これから更に10年の間は何も対策がないということでよいのか。暫定で、既存の人道橋を生かした形でエレベーターを設置することは可能なのではないか。

森区長：生見尾の人道橋には段差があるため、バリアフリー対策の観点から新たなエレベーターを設置したとしても、依然として課題は残る。道路局からの説明により、どのくらい時間や予算などがかかるかを確認したうえで代替措置がないか区としても確認したい。

井上議員：大事な課題なのでお願いしたい。古市場踏切もこれから拡幅するがエレベーターの設置予定はないと聞いている。このことについて区は認識しているのか。

山本土木事務所長：古市場踏切は、歩道が無く狭いので線路内の歩道を拡幅することで、JRと調整している。JRで踏切の拡張ができることになれば、併せて踏切に接続する横浜市の道路の拡張も進めていく。

井上議員：区マスタープランの地域分断の一つでもあるので、是非進めていただきたい。

山田議員：鶴見区災害時医療体制推進事業の災害医療訓練は、病院や関係団体、町内会と連携して、発災時にはスムーズに対応できるように、しっかりと実施してもらいたい。

山田議員：区配事業のひとり暮らし高齢者「地域で見守り」推進事業は、

今後ひとり暮らしの高齢者が多くなるため、民生委員も大変だが、区役所と地域包括支援センターの3者で連携して支援していただきたい。認知症対策については、本人から助けを求めることができないことも多いので、是非地域に目を向けていただき、困っている方の支援をお願いしたい。

山田議員：鶴見区は、外国人が多く多文化共生が重要。外国につながる子どもたちの学習支援では、わかりやすく教えるなど、きめ細かく支援してほしい。

山田議員：鶴見駅西口周辺の環境改善や末吉橋の架替工事といった区提案反映制度の事業は鶴見区にとって大事なことなので、しっかり進めてほしい。

古谷議員：防災活動推進事業の区本部機能強化事業に関連し、鶴見区役所自体が浸水想定区域であるということ踏まえ、地下の電源装置を上階へ移動することについて、現在の検討状況はどうか。

菊池総務課長：地下の電源装置全てを上階に移動させることについては、スペースや荷重の問題があり、抜本的な対応が必要なため、局も含めて検討していく課題となっている。現在6階に設置されている防災無線用非常用自家発電機については、機能することを想定して訓練を行っている。浸水対策としては、31年度は、1階区民ホールのガラスが洪水時の漂流物で破損する恐れがあるため、浸水防止のガラスフィルムを施工する。

古谷議員：現在の対応は、あくまでも非常用に過ぎない。洪水ハザードマップで区役所が浸水すると示されているので、できるだけ早く抜本的な対応をお願いしたい。

古谷議員：脱温暖化行動推進事業に関連して、区庁舎屋上の太陽光パネルは稼働していないと聞いている。今後、どのようにしていくのか伺いたい。

菊池課長：屋上に設置してある太陽光発電装置は、修繕を行った場合、発電による収益を上回る費用が発生する見通しで、費用対効果等の観点か

ら修繕を行っていない。なお、区庁舎の電力入札に当たっては横浜型グリーン電力入札に関する要綱に基づき、環境に配慮した電力の購入に努めている。

古谷議員：稼働していない太陽光パネルが置いてあることは、対応として不十分。是非、改めて対応していただきたい。

古谷議員：寄り添い型生活支援、寄り添い型学習支援に関連し、こども食堂を運営されている方から、多くの区民にこども食堂について知っていただくことも含め、もっと応援してほしいとの要望があった。区内のこども食堂について、どのくらいの情報を把握し、どうしようと考えているのか聞かせてほしい。

小黒福祉保健課長：こども食堂については、届け出制ではないが、区内に10か所存在し、内容についてもある程度把握している。現状では、関係者や区民の方など多くの方に知らせるところまでは至っていないが、設置等については区社会福祉協議会が取り組んでいるので、実態についてどのように公開していくのか、区社会福祉協議会と検討していきたい。

古谷議員：市全体でも設置支援を始めたので、こども食堂同士が情報交換する場を、是非作っていただきたい。

古谷議員：国際交流ラウンジの運営は、ボランティアで成り立っているが、ボランティアへの交通費支給を検討してほしい。また、こどもを連れて相談に来た方が相談に集中できない状況があるので、保育サービスの提供を検討してほしい。その他、国際交流ラウンジで困っていることなどについて、局と連携して対応していただきたい。

岩田地域振興課長：確かに国際交流ラウンジの学習支援などのボランティアは無償だが、有償化するためには学習支援ボランティアの謝金に加えてボランティアの登録や管理を行っているコーディネーターの人件費も増加することから、有償化は難しい状況。一方、ボランティアの方々からは、交通費よりも子どもたちへの教材を充実させてほしいとの要望があるので教材の充実を図っている。

古谷議員：三ツ池フェスティバルでは、警備に消防団全体が関わっていると聞いている。近隣の消防団であればまだ理解できるが、安易に警備機

	<p>能を消防団に協力してもらうのはどうなのか。例えば警備員を雇う方法もあるが、考えを伺いたい。</p> <p>岩田地域振興課長：鶴見川サマーフェスティバルでは警備範囲が広く、花火前後の時間帯の人出も多いことから、かなりの部分を警備会社に委託している。一方で、オリンピック・パラリンピックを控え、警備費が大幅に上昇しているので三ツ池公園及び臨海フェスティバルについては、警備会社への委託を最小限に留め、大部分を地域の方や消防団の方にお願ひさせていただいており、限られた予算内で警備費の増額については現状では難しい。</p> <p>山田消防署長：様々な条件の中で消防団としてどこまで協力できるか、負担が最小限で済むように消防団の警備体制の在り方について改めて検討していきたい。</p>
<p>備 考</p>	